

第4次伊勢市子ども読書活動推進計画 取組状況一覧表

計画項目	方策	令和7年度の内容 (できたこと、できなかったこと)	求められるミッション に対しての課題	専門職員の意見 (岡):皇學館大学教授 岡野裕行先生 (宮):教育メディア課 宮澤優子	担当課	No.
1 家庭・地域における読書活動の推進	①ブックスタート支援事業	赤ちゃん訪問時にブックスタートや図書館の紹介を行った。令和7年度は、点字絵本紹介が必要となる対象者おらず。今後、必要な方がいた場合は、紹介を行う。		高い配布率であるので、図書館の児童サービスについての周知も兼ねた配布物(広報)の見直しを実施すると良いか。(宮)	健康課	1
	②子育て支援施設における児童書の充実と読書環境の整備	子育て支援センターにおいて絵本等を充実し読書環境の整備を行った。	図書コーナーを設置しているが、0～1歳児については自発的な利用が少ないため、スタッフから声かけをしている。	サイン(看板)等の見直しも必要か。(宮)	保育課	2
		・市立図書館の除籍図書配布及び団体貸出を活用して書籍の充実を図った。 ・三重県児童館連絡協議会として三重県教育委員会の「本よもうねっとMIE(みえ読書活動推進ネットワーク)」に加盟。読書推進にかかるイベント等の情報提供があれば、館内に掲示している。	新刊図書を購入したり、古い本を新しく買い替えたし、図書の充実を図る。	「本よもうねっとMIE」のほうでもイベントを開催したり、情報提供が進められているので、ここには継続的に伊勢市の情報を提供してほしい。(岡) 公共図書館の団体貸出を利用するのも一手だと思うので、公共図書館の児童サービスの案内を、教育メディア課と一緒に実施する方向でどうか。(宮)	子育て応援課	3
	③放課後児童クラブとの連携	市立図書館除籍図書配布について各クラブへ情報提供した。		児童館に対する公共図書館の児童サービスの案内を、教育メディア課と一緒に実施する方向でどうか。(宮)	子育て応援課	4
	④諸施設における取組	ママほっとテラス内に絵本コーナーを設置。幼児健診、子育て相談等の事業内で絵本を設置し、来所者に絵本を見て頂くきっかけづくりを行った。			健康課	5
		子育て支援センターにおいて、絵本の読み聞かせ等により子どもと絵本の出会いのきっかけづくりを行った。	読み聞かせの講座を引き続き実施する。		保育課	6
		各コミュニティセンター分室には、テーマコーナーとして「ふるさとの本棚」が設置されており、子どもたちの地域への愛着を高めるとともに、読書機会を創出するきっかけ作りとしている。	子どものみを対象としたコーナーではないため、分室の子ども向け書籍の充実についてはブックマルシェの活用を検討していく。		市民交流課	7
	【計画にはないが追加すべき方策】	視覚障害者用音声読書器や視覚障害者用拡大読書器などを支給することにより、障がいのある子どもの家庭での読書支援を行っている。	令和7年度は児童に対する支給実績はなかった。必要な児童に支給ができるよう、周知が必要である。		高齢・障がい福祉課	8

第4次伊勢市子ども読書活動推進計画 取組状況一覧表

計画項目	方策	令和7年度の内容 (できたこと、できなかったこと)	求められるミッション に対しての課題	専門職員の意見 (岡):皇學館大学教授 岡野裕行先生 (宮):教育メディア課 宮澤優子	担当課	No.
2 幼稚園・ 保育所等※ における 読書活動の 推進	①絵本等の充実と読書環境の整備	・公立幼稚園では、経費の中から、必要に応じて絵本を購入した。	第4次伊勢市子ども読書活動推進計画を教育総務課と共有し、蔵書や環境の充実を図る。		学校教育課	9
		・子どもが自由に好きな絵本を手にとって見られるよう安全な環境の整備を行った。	・新刊図書を購入したり、古い本を新しく買い替えたり図書の充実を図るとともに、児童の好む絵本の把握に努める。		保育課	10
	②幼稚園・保育所等における取組、市立図書館との連携	・公立幼稚園では、公立図書館と連携して、毎月、または年に数回のおはなし会に参加したり、移動図書館やブックマルシェを利用したりし、読書活動の更なる充実を図った。 ・まちづくり協議会と連携し、読み聞かせ会を行った。 ・年長クラスでは、市立図書館に本を借りに行く等の体験も行った。	・市立図書館と連携し、子どもと絵本の出会いを充実させる。 ・家庭にも啓発し、読書習慣の定着を図る。		学校教育課	11
		・定期的に絵本だよりの配信を行った。 ・絵本貸し出しを実施した。 （子どものみ週1回、親子貸し出し 等） ・市立図書館と連携した。 （おはなし会、絵本を借りる、図書カード作成等） ・お迎え時の絵本の読み聞かせを行った。 （不定期開催）	・絵本の良さ、絵本を通じて親子での時間の大切さを伝える。 ・親子貸し出しでは、借りる子とそうでない子の差が激しい。 ・お迎え時の読み聞かせは、参加者が固定されてしまいがちである。		保育課	12
	③研修会などへの参加	・職員への研修会の計画・実施ができなかった。	・現場のニーズに即した研修会や講演会の実施方法を検討する必要がある。		学校教育課	13
	【計画にはないが追加すべき方策】 子ども読書支援に関する教育総務課と教育メディア課の連携	令和7年度は公立幼稚園の園長会への出席により、各園への公共図書館の児童サービスの案内を行った。		令和7年度から始めた園長会での案内を令和8年度当初に市内の全幼稚園・保育所・認定こども園に拡張し、新規依頼が増えるといった効果があったので、これをルーティンとして継続する。(宮)	教育メディア課	14

第4次伊勢市子ども読書活動推進計画 取組状況一覧表

計画項目	方策	令和7年度の内容 (できたこと、できなかったこと)	求められるミッション に対する課題	専門職員の意見 (岡):皇學館大学教授 岡野裕行先生 (宮):教育メディア課 宮澤優子	担当課	No.
3 学校における読書活動の推進	①図書の実と読書環境の整備	・新刊図書や推薦図書、リクエスト本を購入した。 ・学校図書館スタッフが中心となり蔵書点検を行い、さまざまな種類の図書を購入したり、古くなった図書を廃棄したりした。 ・新刊図書や推薦図書が分かりやすいように、学校図書館のレイアウトを変えたり学校図書館前に掲示をしたりした。	・学習で必要とする図書購入により一層努める。特に各教科に関する図書の充実が必要である。 ・学校間での読書環境の工夫や購入図書について、情報共有をする。 ・安心した読書環境をつくるため、耐震化された本棚の設置や新しい机・椅子が必要である。		城田中学校	15
		・学校と学校図書館事務業務受託者により、環境整備を行った。 ・図書館所有の図書(読書ツアーの本)を学級にまとめて貸し出し、読書ツアーを進められるようにした。 ・これまで保管されていた廃棄本を適切に処理した。	・図書館整備に伴い、書架の追加(棚の増加)などが必要。 ・毎年PTAから図書費をいただいております、毎年学級図書が増える。学級図書の廃棄基準や本の選書についてもアドバイスをいただきたい。	一般に図書費が減額されがちななかで、PTAからの資金援助が活用できているのは資料充実の点で良いことだと思う。選書や廃棄の点については、他校の動向も見ながら市内で情報共有ができると良いと思う。(岡) PTA等からの寄贈分も、図書館の蔵書とすることで管理や維持が担保されるので、毎年年度初めにその方向で各学校へ周知を行う。(宮)	御園小学校	16
		・学校間相互貸借制度を運用した。 ・学校と学校図書館活性化支援事業受託者により、差込サインの統一など環境整備を行った。 ・すべての学校で蔵書点検を実施した。 ・学校図書館の管理に関する各種基準を策定した。	・学校間相互貸借制度の利用がほとんどないことから、利便性も含めて再検討が必要。同時に市立図書館の団体貸出・相互貸借等の利用を促進する。 ・廃棄が進んでおらず開架の使い勝手に課題があるので、より使いやすい学校図書館を目指して環境整備を進める。 ・はじめて蔵書点検を実施した学校もあり、蔵書管理の正確性や適正化が必要な状況が見て取れた。今後は管理に関する各種基準に準じて管理し、市内の学校図書館の標準化を目指す。		教育メディア課	17
	②人的体制の整備	・教育支援ボランティアによる、学校図書館支援(整備、読み聞かせ)を4校で行った。	・子どもの読書への意欲を高めるため、教育支援ボランティアによる支援を継続拡充する。		学校教育課	18
		・週1日の学校図書館スタッフの配置があり、購入図書の検討、蔵書点検、廃棄図書の選定、テーマ別図書の選定、魅力を引き出すディスプレイの設置、図書オリエンテーション、図書委員会との連携等を行っていった。	・学校図書館を有効活用できるように、学校図書館スタッフの配置日・配置時間の拡充について検討する。		城田中学校	19
		・司書教諭が3日配置された。 (リブネット1日、TRC2日)[モデル校として] ・リブネット、TRCの司書さんの役割分担について、学校側ではわからず、困ることがあった。 ・委員会にも参加してもらい、図書館運営について助言をいただいた。	・授業での司書や図書については、まだ上手く活用できていない。 年間計画をもとに取り組みの記録を残していくことで次年度につながる。		御園小学校	20
		・学校図書館法に基づき、12学級以上の学校(小学校11校、中学校4校)で司書教諭を発令している。また、12学級以下の学校(小学校6校、中学校6校)でも、司書教諭を発令している。		12学級以下の学校でも司書教諭を発令しているのは評価されると思うので、この点は今後も継続して人の配置がなされるようにしてほしい。(岡)	学校教育課	21
		・すべての小中学校に、学校図書館スタッフを週1回程度配置した。	・学校図書館の機能向上のために、学校図書館スタッフの配置日数を拡充する。		教育メディア課	22

第4次伊勢市子ども読書活動推進計画 取組状況一覧表

計画項目	方策	令和7年度の内容 (できたこと、できなかったこと)	求められるミッション に対しての課題	専門職員の意見 (岡):皇學館大学教授 岡野裕行先生 (宮):教育メディア課 宮澤優子	担当課	No.
3 学校における読書活動の推進	③研修会などへの参加	・学校図書館担当者会議が全3回行われ、伊勢市または伊勢市教育委員会の取り組みが報告されたり、各校の学校図書館の交流が行われた。	・さらに各校の学校図書館の工夫や課題などを情報共有する機会を設ける。		城田中学校	23
		・メディア課から、R8年度からの図書館運営等についての研修が行われた。	・年度が変わり、図書館利用や司書の配置が変わったので、現場のニーズにあった研修会等の実施を検討する。	これまでの取り組みを踏まえて、司書の配置も新たなものになったので、良い形で学校図書館が活性化できるように、研修会は定期的に行ってほしい。(岡)	御園小学校	24
		・学校図書館活性化支援事業受託者により、図書館スタッフへの研修が行われた。 ・学校図書館活用の具体を広く現場に知っていただくため、教育メディア課による職員研修や模擬授業が、70回実施された。 ・学期ごとに学校図書館担当者会を開催した。 ・教育研究所の講座で、学校図書館活用についての研修講座が開催された。(8月1日)	・現場のニーズに即した研修会、講演会を実施する。		教育メディア課	25
	④読書への関心を高める取組	・年度初めに図書オリエンテーションを行い、図書館の利用の仕方を伝えたり、推薦図書を紹介したりしている。 ・学校図書館の図書を学級移動文庫として貸し出し、朝読の時間に読めるようにしている。 ・長期休業前に、テーマごとの図書や推薦図書を並べて紹介し、長期休業前貸し出しを行った。	・電子図書館の利用の仕方を周知する。 ・学校図書館を授業で利用することにより、図書に触れる機会を増やす。 ・購入図書をお知らせする方法をより一層検討する。		城田中学校	26
		・図書委員会で「読書スタンブラリー」を開催した。 ・モジュールの時間帯(週一時間程度)は、朝の読書の時間を設けた。 ・全クラスへのオリエンテーション、1,2年生の毎週の読書の時間には読み聞かせをもらった。	・高学年になると全体での読書の時間を設けることが難しくなる。 ・児童だけではなく、保護者への啓発も必要。(方策⑥)		御園小学校	27
		・学校図書館スタッフによる、本の紹介コーナーの設置や読み聞かせを行った。 ・学校図書館スタッフにより、小1・4、中1にオリエンテーションを行った。 ・読書ツアーの配付配信を行った。	・学習や生活と関連した展示や掲示を、恒常的に行う。 ・オリエンテーションの網羅性を上げ、児童生徒の図書館活用能力を向上させる。 ・読書ツアーにかわるレコメンドの手立てを検討する。		教育メディア課	28

第4次伊勢市子ども読書活動推進計画 取組状況一覧表

計画項目	方策	令和7年度の内容 (できたこと、できなかったこと)	求められるミッション に対しての課題	専門職員の意見 (岡):皇學館大学教授 岡野裕行先生 (宮):教育メディア課 宮澤優子	担当課	No.
3 学校における読書活動の推進	⑤学校における取組、市立図書館との連携	・学校図書館の図書を読むために、学級移動文庫を設置し、朝の読書時間に活用した。 ・学校図書館前の廊下に季節ごとやテーマごとの図書を設置し、テーマごとの図書や推薦図書を紹介した。 ・図書委員会を中心に、年2回図書館まつりを開催した。1回目は題名クイズを行い、2回目はブック・マルシェを行った。また、年度の終わりには年間で本を多く借りた生徒について多読賞の表彰を行った。 ・市立図書館の図書館だよりを教室掲示している。	・学校図書館の利用の仕方や利用方法も含めて、見直し・検討していく必要がある。	図書館まつりやブックマルシェの機会は積極的に活用してほしい。また、こうした各小中学校の参加・開催の事例は参考になる部分も多いと思うので、他校にも積極的に情報共有をしていただきたい。(岡)	城田中学校	29
		・御園小の取り組み 夏休みの親子読書「あゆみ」 3-⑥にも記入 ・小俣図書館より移動図書館に来てもらい2年生が読書活動を行った。	・団体貸し出しの利用を積極的に行う。		御園小学校	30
		・学校図書館スタッフにより、市立図書館からの団体貸出を実施した。 ・モデル校への配置資料を、合同選書した。	・公共図書館からの団体貸出が、同時期に集中するので、調整のための手立てを検討する。 ・公共図書館と学校図書館の分担収集について、精度を上げていく。		教育メディア課	31
	⑥家庭への啓発	・図書館だよりを発行することによって、新刊図書を家庭にも紹介している。	・読書がどのように学力と関係するのか具体的なデータがあれば、それらを家庭に紹介していく。 ・読書の重要性を数多く発信していく。	下記No.34の新刊図書の掲載について参照(岡)	城田中学校	32
		・御園小の取り組み 夏休みの親子読書「あゆみ」3-⑤にも記入 (読書をして感想を子どもが書く→保護者がその感想を読んでコメントを書く。) ・年度初め長期休み前に「電子図書の活用」の案内をした。	・親子読書「あゆみ」の参加が減ってきており、継続していくかどうかの検討をしている。 ・保護者にも読書に興味を持ってもらうためには、どのような啓発をしていくとよいのか様々な手立てを知りたい。		御園小学校	33
		・学校図書館スタッフにより、図書館だよりを発行した。 ・学校だよりや学校HPで、啓発する学校もあった。	・各家庭への啓発がより実効性を持ったものになるよう、発信方法を検討する必要がある。	新刊図書の情報を図書館だよりに掲載することも重要だが、学校図書館の活動状況や他校(他自治体の取り組み)の事例なども情報共有してもらえると、保護者の側の学校図書館に対する認識も変わることが期待できる。本の紹介から活動の紹介(やったことだけでなく、やりたいこと)まで取り上げてもらえるとうれしい。(岡)	教育メディア課	34
	⑦ネットワークづくりの推進	・図書館システムを使い、貸し出しや返却を行った。また、本を探す機能を用いて、図書の検索を行った。 ・図書館システムを使い、貸し出し冊数を把握し、多読賞の表彰に活用した。	・1人1台のタブレット端末による個人ページの機能について、使い方や利用の仕方を説明する機会を設ける。		城田中学校	35
		・伊勢市学校図書館担当者会を開催した。 ・市内の公立幼稚園の園長会に出席した。 ・児童サービスを展開できそうな部局への、サービス紹介を実施した。	・各学校間の事例共有の仕組みを、学校図書館活性化支援事業受託者と構築する。 ・サービス対象へ直接アプローチすることで、効果的な広報活動ができるので、より積極的に出かけていきたい。		教育メディア課	36
【計画にはないが追加すべき方策】				読書ツアーが終了したことを受け、非接触型読書案内の各種ツールの作成が必要。(ブックビンゴ作成済み)(宮)		37

第4次伊勢市子ども読書活動推進計画 取組状況一覧表

計画項目	方策	令和7年度の内容 (できたこと、できなかったこと)	求められるミッション に対しての課題	専門職員の意見 (岡):皇學館大学教授 岡野裕行先生 (宮):教育メディア課 宮澤優子	担当課	No.
4 市立図書館における読書活動の推進	①図書資料の充実と読書環境の整備	教科書で紹介されている本の購入、ブックフェア、ブックキャラバンによる見計らい選書、二見分室の引っ越しに伴う図書の入替を実施、内容の古い本の廃棄、傷んだ図書の買替、廃棄資料は小中学校、児童館などにリユースをした。	蔵書が不十分であったため、資料の提供ができない事があったため、選書の工夫や、分室の所蔵資料の活用をしていきたい。		伊勢図書館	38
		内容が古くなった図書の廃棄を行うとともに、ブックフェアやブックキャラバンを活用し、現物選書を行った。また、子どもたちが分類に親しみを持ってもらえるよう、児童コーナーの差し込み板を駅前子育て支援センター入り口の壁面イラスト(tupera tupera作)を用いたものに刷新した。	決められた予算内でより充実した所蔵を維持するための分担収集について、検討していくことが課題。		小俣図書館	39
		各コミュニティセンター分室では、分室の周知を図るために、各自治体での広報いせ配布時に開館日の案内を同封してもらうようお願いしている。	伊勢図書館・小俣図書館から遠方に住む子ども達にとって、コミュニティセンター分室は通える距離にある図書館として重要な存在であるが、その存在の周知状況は未だ十分といえない。また、分室までも自宅から遠いという子どもたちがいるので、さらに細かく拠点をつくれる移動図書館も検討する。		市民交流課	40
	②児童図書館員の養成	鳥羽市立図書館主催「ストーリーテリング講習会」に参加し、館内でのおはなし会で実践した。津市で開催された「絵本でうちどく・まちどくミーティングin三重」に参加し、内容は全スタッフに共有された。	児童サービス向上のための研修や講座への参加。受講した内容を他のスタッフへの共有や館内での実践へとつなげていく。		伊勢図書館	41
		スタッフ全員で、教育メディア課宮澤主幹のブックマルシェ選書の研修(録画)を受講するとともに、ブックマルシェをはじめとする児童書に関わるイベントに積極的に参加した。また、国立国会図書館主催の児童文学連続講座にオンラインで参加し、その後全スタッフに資料等を共有し、知識を深めた。県の図書館協会の児童サービス研究会に責任者が参加し、他館の事例等も学んだ。	外部研修へ積極的に参加するために、研修案内のリサーチが課題。	ブックマルシェも安定して継続ができるように、ノウハウはしっかりと継承できるようにしてほしい。(岡)	小俣図書館	42
	③市立図書館における取組	おはなしボランティア、学生ボランティア、ALT、保健師とも協力して、おはなし会の実施。おはなし会は館内だけではなく、保育所、幼稚園、施設などに出向いても実施した。子ども向けの行事も各種実施した。伊勢まつりや地域連合会の行事等で、カードの作成などのアウトリーチ活動の実施。	継続的に図書館を利用してもらえるよう立案、周知、運営を行う。	お祭りの機会などでのアウトリーチ活動は今後も継続的に行ってほしい。 (別の事例だが、6月に久居で開催されたホンツツキには三重県立図書館もブースを出されており、図書館の情報を発信されていた。伊勢市内で開催されるお祭りには小規模でも図書館のブースがあると良いように思う。)(岡)	伊勢図書館	43
		三重県図書館協会の助成金事業を活用し、「わくわく！ムシフェスタ☆」(夏休み抽選会イベント、おはなし会、切り紙講座等)を実施した。ボードゲーム「みんなで本をもちよって」(教育メディア課から借受)を実施し、YAの参加を期待したが、申込みはあったものの、当日にキャンセルとなり、不参加となった。「酒井駒子原画展」では、同会場で原画の図書『金曜日の砂糖ちゃん』の読み聞かせおはなし会を実施し、おはなしの世界をより深く感じてもらうようにした。	参加につながるための周知方法が継続課題。		小俣図書館	44

第4次伊勢市子ども読書活動推進計画 取組状況一覧表

計画項目	方策	令和7年度の内容 (できたこと、できなかったこと)	求められるミッション に対する課題	専門職員の意見 (岡):皇學館大学教授 岡野裕行先生 (宮):教育メディア課 宮澤優子	担当課	No.
4 市立図書館における読書活動の推進	④外国語を母語とする子どもへの対応	外国語(英語、中国語、ポルトガル語)の利用案内の改訂を行った。図書館見学の際にはEECコーナーをPRし、利用促進に努めた。	EECコーナーなど既存の資料の周知、活用を広げる。	下記No.50の項目とも被るが、設置しているコーナーの稼働状況の実態が把握できるとよい。今後の課題や新たな展開などができるように、実態の把握ができるようにしたい。(岡)	伊勢図書館	45
		市内在住の外国語を母語とする子どもたちが、どんな図書が必要としているか、調査、把握ができていない。	実態把握が課題。		小俣図書館	46
	⑤障がいのある子どもを含めたすべての子どもに対する配慮	「りんごの棚」を設置し、周知に努めた。児童向けの大活字本、LLブックなどの資料を新しく購入した。	「りんごの棚」の資料の充実、さらなる周知。		伊勢図書館	47
		バリアフリー月間に、「LLブックを知ろう！」コーナーを設置し、LLブックやLLブックに関する図書の設置を行った。さらに、図書館だよりの「なるほど図書館！」コーナーでもLLブック特集を組んだ。	所蔵だけでなく、利用してもらうための周知が課題。		小俣図書館	48
	⑥家庭への啓発、情報発信	図書館だよりのYA向け情報誌Voice!の発行。おすすめおひさよみリストの作成、配布。家読コーナーの常設化。季節のコーナーや作家特集コーナーの設置。図書館だよりの電子図書館や伊勢図書館ホームページ上でも閲覧できる。	利用者のニーズの把握。 ホームページやSNSでの情報発信を強化。		伊勢図書館	49
		「図書館だよりの」や「こどもの本ニュース」の発行、ホームページやSNSによる情報発信を行うとともに、県の「本よもうね」とMIE」ホームページ等でイベントの告知を行った。館内では県の教育委員会が発行した「家読のすすめ」リーフレットを配架し、幅広い年齢層へ向けた読書案内も行った。	アンケート結果より、イベントを知ったきっかけの多くは紙媒体やスタッフからの声掛けであることから、SNSやホームページから情報入手してもらうための魅力ある発信をすることが課題。	SNSからの情報は閲覧者の嗜好に合わせたものにもなってしまうので、なかなか効果的に情報を届けることが難しいが、安定的に継続して情報発信を続けてほしい。(岡)	小俣図書館	50
	⑦ボランティアに対する支援	今年度もボランティア養成講座を実施し、講師は現在おはなしブーさんに属している方をお願いし、講師のスキルアップも目指した。以前に講座受講後、入会したメンバーは現在も活躍してくれている。	ボランティアメンバーの育成。		伊勢図書館	51
		図書館まつりでは児童コーナーでスペシャルおはなし会を実施していただき、司会進行役を図書館スタッフが担った。会場では図書館スタッフが呼び込み等を積極的に行い、たくさん子どもたちに参加してもらえるよう力を注いだ。	ボランティアと図書館の連携強化が課題。	ボランティア団体の登録制度と研修体制の確立(着手済み)(宮)	小俣図書館	52
	⑧電子書籍の導入に向けた検討	電子図書館のサイト内で、様々な特集を組み、児童生徒がより資料にたどり着きやすいよう整備した。	児童生徒の保護者への周知を強化する。	電子書籍に関しては利用状況が保護者の側に見えてこないことも多いと思われるので、実際にどのように活用されているのかを周知する機会があるとよい。(前述No.50の図書館だよりの内容と重なるが)(岡)	伊勢図書館	53
		新規図書館カード作成時に電子図書館の案内を行い、利用普及に努めた。	電子図書館の普及が課題。		小俣図書館	54

第4次伊勢市子ども読書活動推進計画 取組状況一覧表

計画項目	方策	令和7年度の内容 (できたこと、できなかったこと)	求められるミッション に対する課題	専門職員の意見 (岡):皇學館大学教授 岡野裕行先生 (宮):教育メディア課 宮澤優子	担当課	No.
4 市立図書館における読書活動の推進	⑨諸機関との連携	学校図書館への配送、学校教育課、福祉健康課へのALT、保健師のおはなし会への派遣要請、図書館活用プロジェクトを活用いただいた出張おはなし会、ハートブラザミその「えほんのひととき」でのおはなし会、高齢者支援課による高齢者や認知症にやさしい応援団関連事業への協力、市内団体への団体貸出などを実施した。	学校との連携に向けて、学校図書館スタッフとの情報の共有を強化する。		伊勢図書館	55
		依頼をいただいた市内園で出張おはなし会を行うとともに、移動図書館車の展示やブックマルシェ等も実施した。また、駅前子育て支援センターあそびーなへの団体貸出＋出張おはなし会も継続的に実施している。	子どもと読書に関わる機関の把握が課題。		小俣図書館	56
	【計画にはないが追加すべき方策】	子どもを連れて本を借りると持ち運びが大変とのことで、カートを2台購入、活用していただいている。	要望があった場合の柔軟な対応。		伊勢図書館	57
		伊勢市在住の絵本作家二見正直さんコーナーをリニューアルするとともに、伊勢市出身の絵本作家亀山達矢さん(tupera tupera)コーナーを設置した。		地元在住の現役作家の方には可能な範囲で図書館活動に関わっていただくようお願いしたい。(岡)	小俣図書館	58

※幼稚園・保育所等…市内の幼稚園・認定こども園・保育所の総称